

「時に及んで將に勉勵すべし。/歳月は人を待たず。」 ～勉勵の意味～

前半か後半か、部分部分については、よく耳にする言葉です。

実際は、連動している言葉なのです。(出典は「雑詩」陶淵明)大きくとらえると、「人生にはしっかりとした拠り所がない。そんなはかない人生を送る上では、大いに語り合い、楽しみ合いたいものだ。大いにやりましょう。歳月は人を待ってはくれないのだから。」という意味。

「勉勵」と銘打っていますが、実際、陶淵明のいう「勉勵」はもっとスケールが大きいもの。机上の勉強だけではありませんね。人生を考え、将来を見通し、人類の不変の真理を考えるということなのでしょう。もっと、本質を考える視座を持ちたいものです。これこそ勉勵の意味。

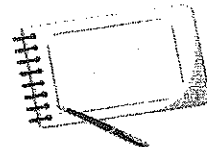
ジャーナリストの吉岡忍さんは、ある報道番組でこのようなことを述べていました。

「原子力発電の事故を受けても、なおかつ稼働への方向をやめない政治家や関連分野の責任者の見識を疑う。いかに安全性を主張しようと、例えば、核使用後の物質について、何重にも封印し地下深くに埋めたとしても何万年単位の処理時間を要する。このような人為を超えた、人為による制御を超越した事柄について、自身の世代から責任を手放すこと自体が非人道的だ。」と。

考え方には多様なものがあり、現状の電力を供給するための手段を選ばない向きの方もいるでしょうが、先の吉岡氏のような考え方こそ、本質を突いた為政者への諫言と言えないでしょうか。

勉勵(勉強)に向かう指針として ～先輩の言葉から～

さて、上級学校への受験について、(高校卒業時点でいわば合格したという意味での)成功した人と、成功しなかった人(もちろん、その後の人生において、この苦難を乗り越え、大成する場合があります。)との、それぞれの言葉を載せます。この1年間の勉勵(学習)への取り組み姿勢に係る参考としてほしいと考えています。(ちなみに、筆者の元赴任高の資料。一部改。)



成功した人 私がなんとか進学できたのは、「授業」をしっかり受けたからです。先生に指名されてまともに答えられたことは少ないけれど、めげずに頑張った。授業を受けるには予習が必要です。予習はみんなやってきていた。しかし、勝負の分かれ目は「復習」。面倒くさくても、やるべし!たまるとんざりだから、こまめにこまめにしておくこと。本当によく言われるけど、学校での勉強をつめてやれば大丈夫です。(中略)学習量のすごさは納得済みかもしれないけれど、先生たちが大切な所を集めて出してくださるのですから、これ以上のものではありません。これは、卒業してみてもはじめてわかるものですね。こういうことって、もっと早くに気づけたらよかったのに、どうして気がつかなかったんだろう、と思います。

失敗した人 一番の原因は、心構えが甘かったのだと思います。「まあ、これくらいやれば受かるだろう。」とか、「今日はまだ遅いから、明日やろう。」とか。自分の「心」が自分の「身体」に甘えを与えていた。「苦」から「楽」へと逃げていたのです。(中略)このことに気づけたのは、先の推薦入試に不合格だったこと。センター試験の2か月前。ものすごい不安と焦りとが頭の中に生じた。大学受験と高校受験との違いを痛感しました。その日から、最後の試験までの間、家で1日9時間勉強しました。しかし、結果は喜ばしい結果ではなかった。大学受験は、そんなに甘いものではなかったのです。(中略)でも、みなさんは、現役の時から、「勉強は積み重ね」ということを肝に銘じて、頑張ってください。

◆このときは失敗した人も、後半のような心構えと実践ができれば、きっと、喜ばしい結果が届くはずです…。

さて、翻って、みなさんには、連休中に、自分から進んで学習できるかどうか、期待しています!!